

地域に根ざした研究活動

北海道地域農業研究所

所長 千葉 燎 郎



社団法人北海道地域農業研究所の発足にあたり、所の研究面の運営をあくまで所長として、一言ご挨拶をお願いを申し上げます。

いま、農業をめぐる情勢は世界的に大きな転機を迎えています。周知のように、「宇宙船地球号」が当面する最大の課題は、ひとつには地球温暖化に代表される人類生存環境問題への対応であり、いまひとつには多くの開発途上国での飢餓問題に代表される人口・食料問題への対応であります。そのいずれもが、地球の緑化を促進する農林業の振興、農産生産の発展にまたなければならぬことは言うまでもありません。他方、いわゆる先進諸国の間に、「農産物の「過剰問題」が生じていることも見のがせませんが、これは市場経済レベルの問題であって、地球レベルの視点にたった適切な処理が必要であり、それは可能で

あります。

要は、世界各国がそれぞれに固有の農林業を維持・発展させることであり、そのためにもてる諸資源をフルに活用することであり、日本においては、とくに何千年にわたって営々と開発してきた水田の維持・活用がはからなければならないと見ます。水田がはたす水供給調節、洪水防止、土壌保全、気候緩和等の諸機能は、発電をのぞけば河川ダムのものであるかにしものぐもがあります。日本の国土環境の利用と保全にもっとも適合した水田の維持・回復を中心に、農用地を適切に利用・管理する経営組織を確立し、それによって山林の利用・管理をも確保することが、わが国農林業の維持・発展のためには欠くことができません。

これを崩壊にみちびく農産物の輸入自由

化、なかでもコメの自由化につよく反対する理由が、そこにあります。もし農林業が衰退して、就業人口の二次・三次産業への集中がいつそう進むならば、農山村の荒廃はもとより、都市の「砂漠化」現象がますます進行し、国土全体の荒廃、地球環境の悪化を促進することは眼に見えています。

こうした情勢のもとで、北海道農業を維持・発展させる重要性が、いよいよ増してきていることは言うまでもありません。その具体的な方策を市町村をはじめとするそれぞれの地域レベルで、地域のみなさんともにも考え、合意をえながら打ちだしていこうというのが、シンク・タンクと呼ばれるこの研究所の役目です。幸い全道の各大学・試験場等におられる実績のある学者・研究者の方が、絶大な協力を申し出ておられます。これらの方がたの熱意を地域に結びつけ、着実に成果をあげていきたいと考えております。

あらためて言うまでもなく、この研究所は、農協・同連合会をはじめとする農業諸団体、生活協同組合、地方自治体、有志個人がそれぞれに費用を負担しあつて、活動を進める自主的な研究組織であります。所の研究運営について、つねに忌憚（きたん）のないご意見を寄せられ、かわらぬご指導、ご鞭撻を賜わりますようお願いして、ご挨拶といたします。